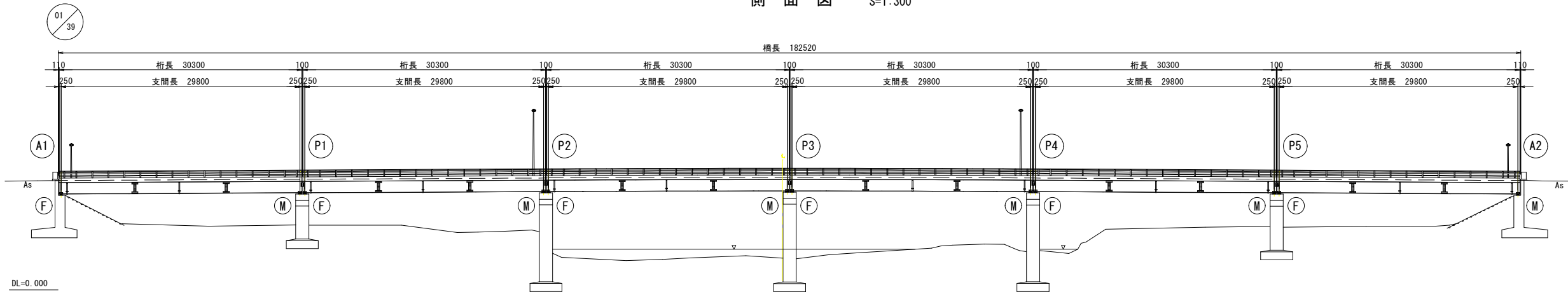


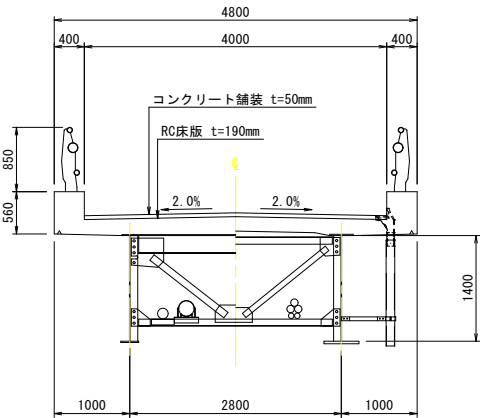
令和6年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 3 4 号	
路線 河川 名		阿光坊線	
施工區所		おいらせ町阿光坊地内	
現況一般図		縮尺	図示
図面番号		葉中	
おいらせ町			
青 森 県			

神明橋 現況一般図

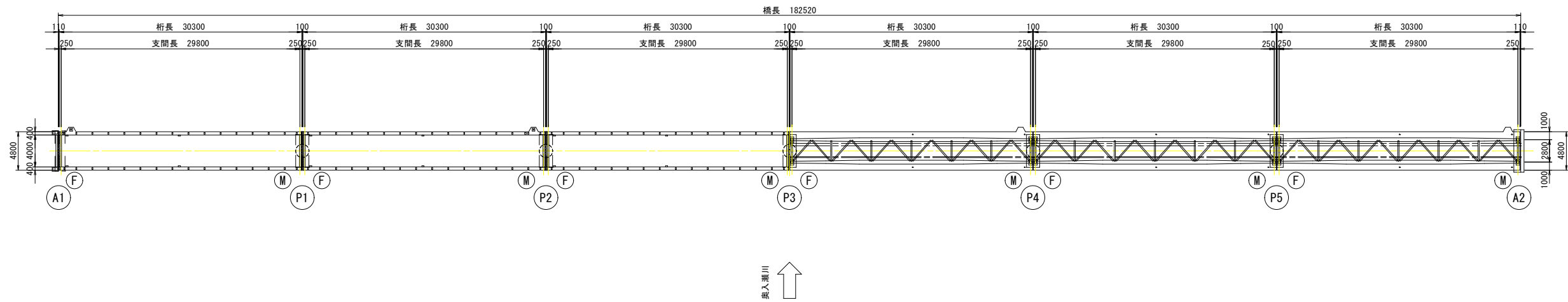
側面図 S=1:300



断面図 S=1:50

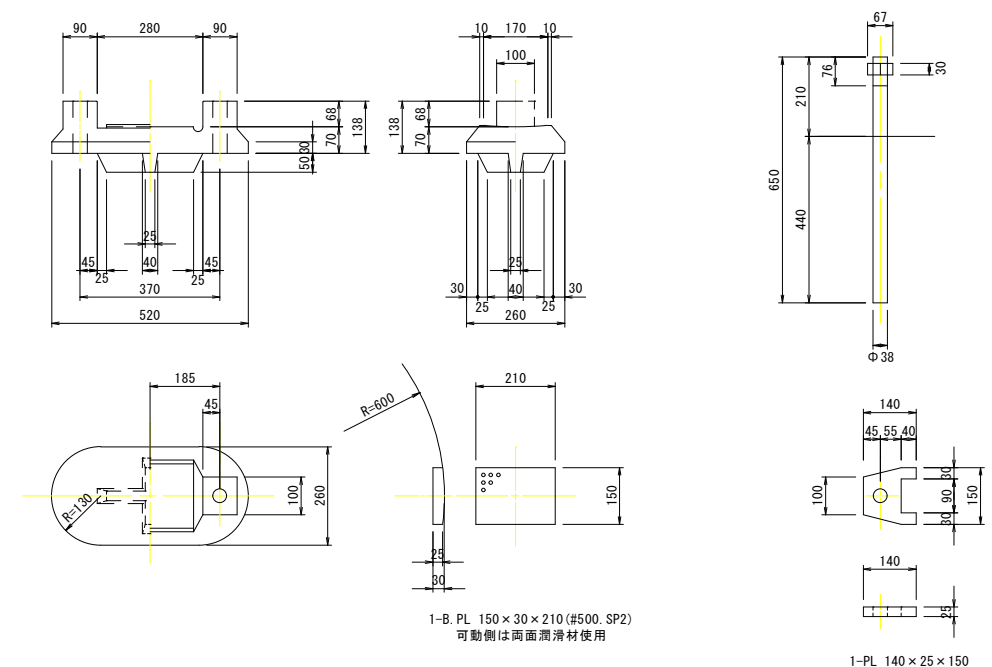


平面図 S=1:300



設計条件		
橋梁名	神明橋（しんめいばし）	
竣工年	1971年2月（昭和46年）	
道路規格	—	
設計速度	—	
橋格	二等橋	
設計荷重	TL-14	
橋長	L=182.520m	
支間長	6@1=29.800m	
有効幅員	4.000m（全幅：0.4+4.0+0.4=4.8m）	
斜角	$\theta=90^{\circ}$	
平面線形	直線	
縦断勾配	0.5% ↘ 0.25%放物線勾配 ↘ 0.5%	
横断勾配	2.00% ↗ ↘	
橋面舗装	コンクリート舗装 5cm厚	
設計水平震度	kh=—	
添架物	電線路 125（外径φ140）×1条（東北電力） 水道管 100/203（水道管φ100、外径φ200）×1条 NTT 80×2条（昭和47、銅管） 100×3条（昭和54、塩ビ管）	
構造	形式	単純活荷重合成鋼板桁（6連）
	使用材料	鋼材 SS41、SM41A、SM50A、B 鉄筋 SD30
詳細	躯体形式	橋台：（重力式橋台） 橋脚：張出し式（円形柱）
	基礎形式	—
	コンクリート	$\sigma_{ck}=—\text{kg/cm}^2$
	鉄筋	—
適用示方書		鋼道路橋設計示方書（昭和39年）

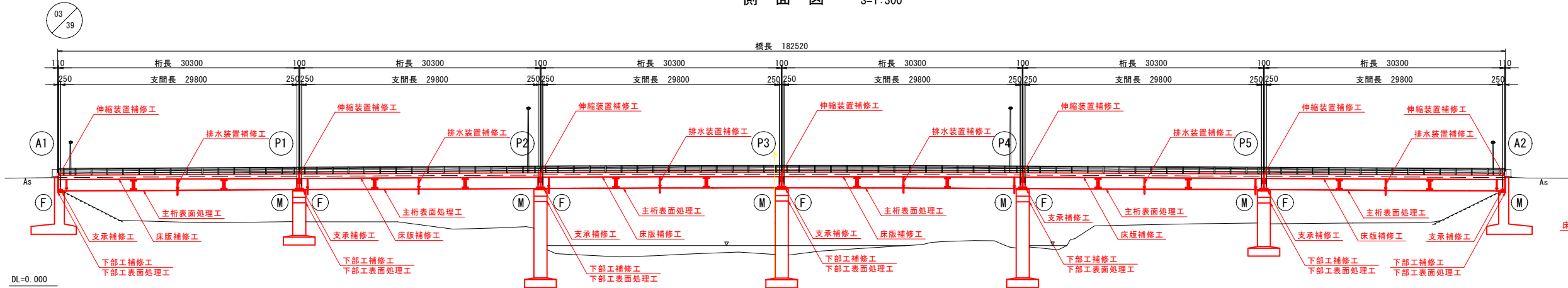
注記
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。



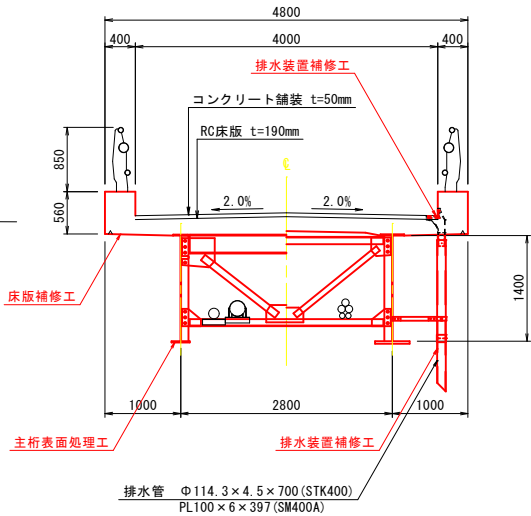
令和6年度 神明橋梁架補修工事		
工事番号	第 3 4 号	
路線 河川	阿光坊線	
施工區所	おいらせ町阿光坊地内	
補修一般図	縮尺	図示
図面番号	業中	
おいらせ町		
青 森 県		

神明橋 補修一般図

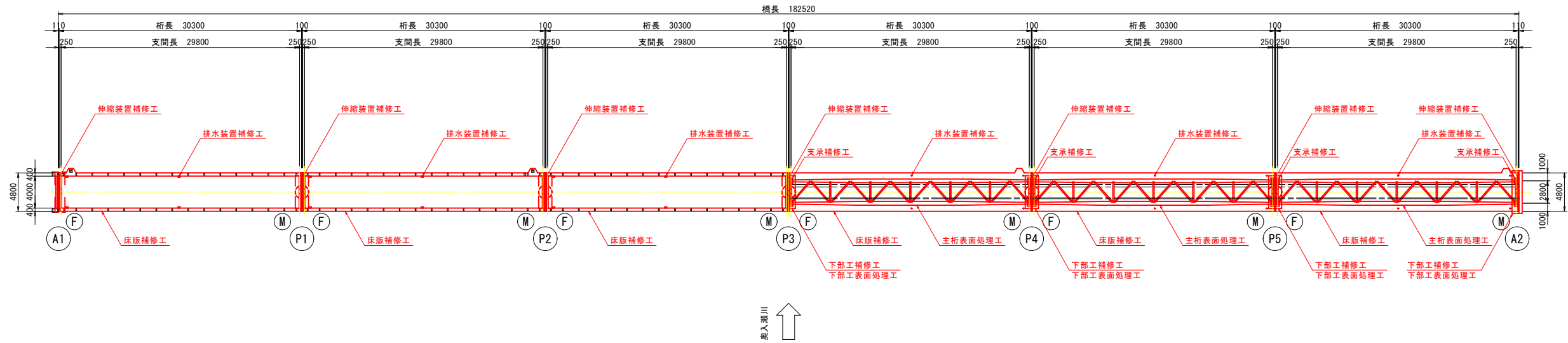
側面図 S=1:300



断面図 S=1:50



平面図 S=1:300



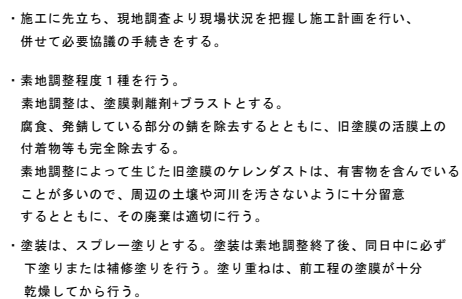
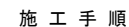
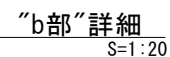
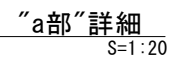
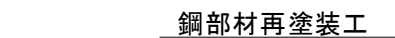
設計条件

橋梁名	神明橋 (しんめいばし)
竣工年	1971年2月 (昭和46年)
道路規格	—
設計速度	—
橋格	二等橋
設計荷重	TL-14
橋長	L=182.520m
支間長	6@1=29.800m
有効幅員	4.000m (全幅: 0.4+4.0+0.4=4.8m)
斜角	$\theta=90^{\circ}$
平面線形	直線
縦断勾配	0.5% 0.25%放物線勾配 0.5%
横断勾配	2.00%
橋面舗装	コンクリート舗装 5cm厚
設計水平震度	kh=—
添架物	電線路 125 (外径 ϕ 140) \times 1条 (東北電力)
	水道管 100/203 (水道管 ϕ 100、外径 ϕ 200) \times 1条 NTT 80 \times 2条 (昭和47、銅管) 100 \times 3条 (昭和54、塩ビ管)
形式	単純活荷重合成鋼板桁 (6連)
	鋼材 SS41、SM41A、SM50A、B
使用材料	鉄筋 SD30
	橋台: (重力式橋台)
基礎形式	橋脚: 張出し式 (円形柱)
	—
コンクリート	σ_{ck} = —kg/cm ²
	鉄筋 —
通用示方書	鋼道路橋設計示方書 (昭和39年)

補修項目	補修工法
伸縮装置補修工	鋼部材再塗装工 (Rc-I塗装系)、金属パテ補修工、止水材取替工
排水装置補修工	鋼部材補修工、鋼部材再塗装工 (Rc-I塗装系)
主桁表面処理工	鋼部材再塗装工 (Rc-I塗装系)
床版補修工	断面修復工、表面含浸工 (高分子系)
支承補修工	鋼部材再塗装工 (Rc-I塗装系)、表面含浸工 (高分子系)
下部工補修工	表面含浸工 (高分子系)
下部工補修工	断面修復工

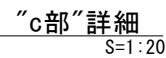
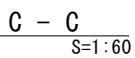
注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

神明橋 伸縮装置補修工図（その1）

Rc-I 塗装系 (スプレー)

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
 ※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
 ※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。



鋼部材再塗装工

注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

令和6年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 3 4 号	
路線 河川 名		阿光坊線	
施工箇所		おいらせ町阿光坊地内	
伸縮装置補修工図 (その2)		縮尺	図示
図面番号		業中	
おいらせ町			
青 森 県			

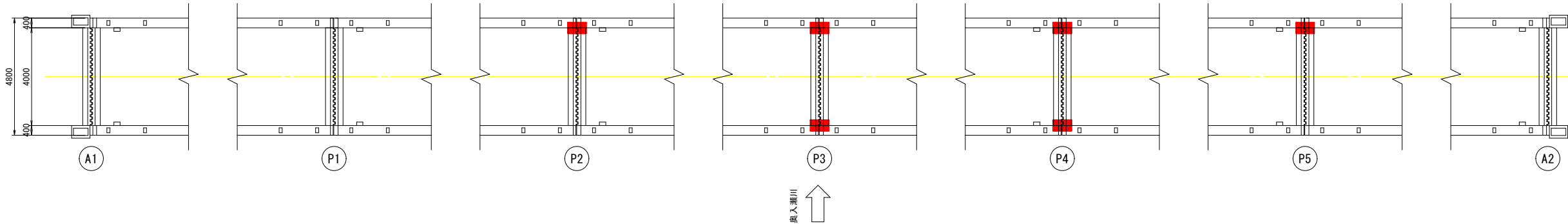
神明橋 伸縮装置補修工図（その2）

鋼部材補修工

位置図

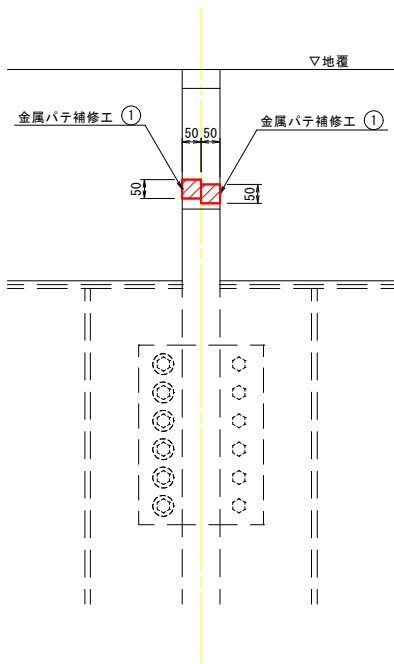
S=1:100

凡例： ■ …… 施工箇所 6箇所

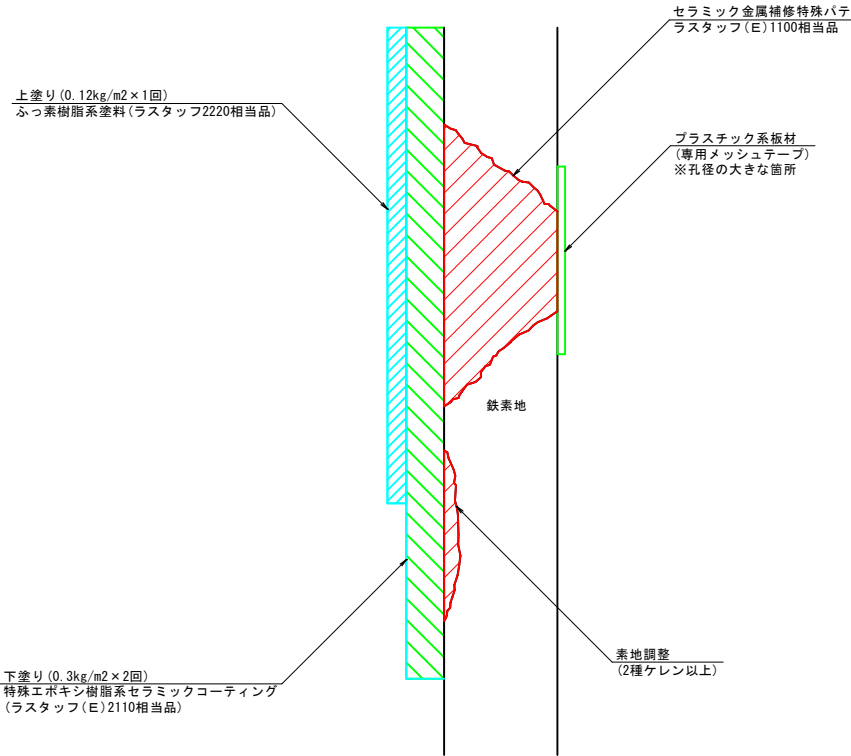


側面図

S=1:10



金属パテ補修工 概要図



数量表 (1箇所当り) (t=3mm) (ポリマーセメントモルタル)

工 法	箇 所	数 量
金属パテ補修工	伸縮装置	2

※塗膜除去後、他の箇所で板厚減少が確認された場合は、適宜、金属パテ補修を実施すること。

金属補修材 基本物性

項 目	試験結果
引張接着強さ	23.6N/mm2
耐磨耗性(磨耗輪法)	52.0mg
ロックウェル硬度Rスケール	115
耐塩水噴霧試験	24,000時間変化なし

下塗り材(塗装) 基本物性

項 目	試験結果
引張接着強さ	23.3N/mm2
耐磨耗性(磨耗輪法)	70.9mg
耐塩水噴霧試験	24,000時間変化なし

塗装部 標準施工仕様

施工工程	使用材料	標準使用量×回数	養生時間
1 素地調整	2種ケレン以上	旧塗膜・さび除去、脱脂、清掃	4時間以内
2 下塗り	エポキシ樹脂系セラミックコーティング	0.3kg/m2×2回 (100μm×2)	4～24時間以内
3 上塗り	ふっ素樹脂系塗料	0.12kg/m2×1回 (30μm)	

- 注)
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
 - 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認し、金属補修及び塗装範囲、数量調査を協議のうえ施工すること。
 - 素地調整については2種ケレン以上とし、鋼腐食部、錆を除去し鋼材面を露出させること。
 - 下地処理面は凹部・亀裂部がなく塗布面平滑となるよう努めること。
 - 下地処理面にはホコリ不純物を完全に除去し、乾燥状態を保つこと。
 - 素地調整後から金属補修工までは速やかに行うこと。
 - 使用する金属補修材は、左記基本物性の補修材を使用し、材料の取扱い注意事項に留意すること。
 - 塗装における素地調整(金属補修部以外)については2種ケレン以上とし、旧塗膜、さびを除去し鋼材面を露出させること。
 - 塗装は、素地調整後から第1層までの時間は4時間以内で行うこと。
 - 使用する塗装材は、上述基本物性の塗装材を使用し、材料の取扱い注意事項に留意すること。

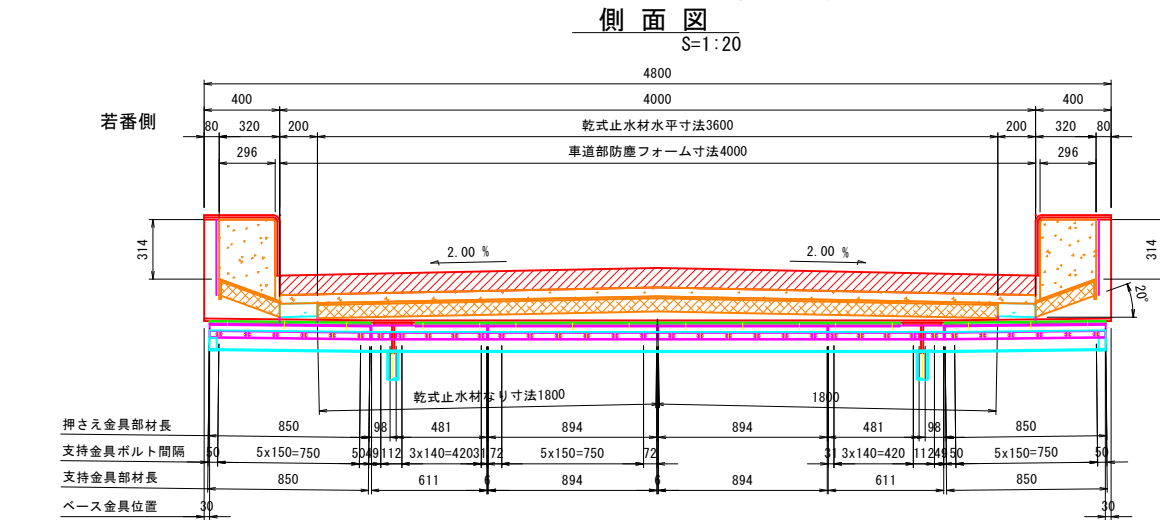
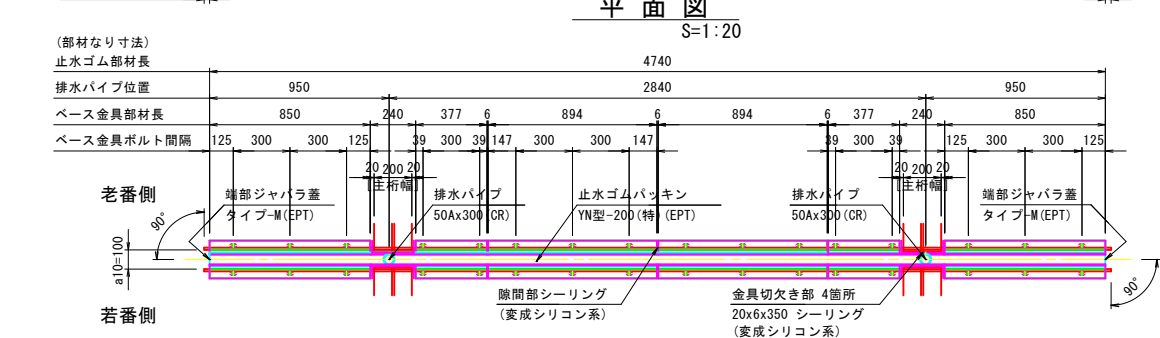
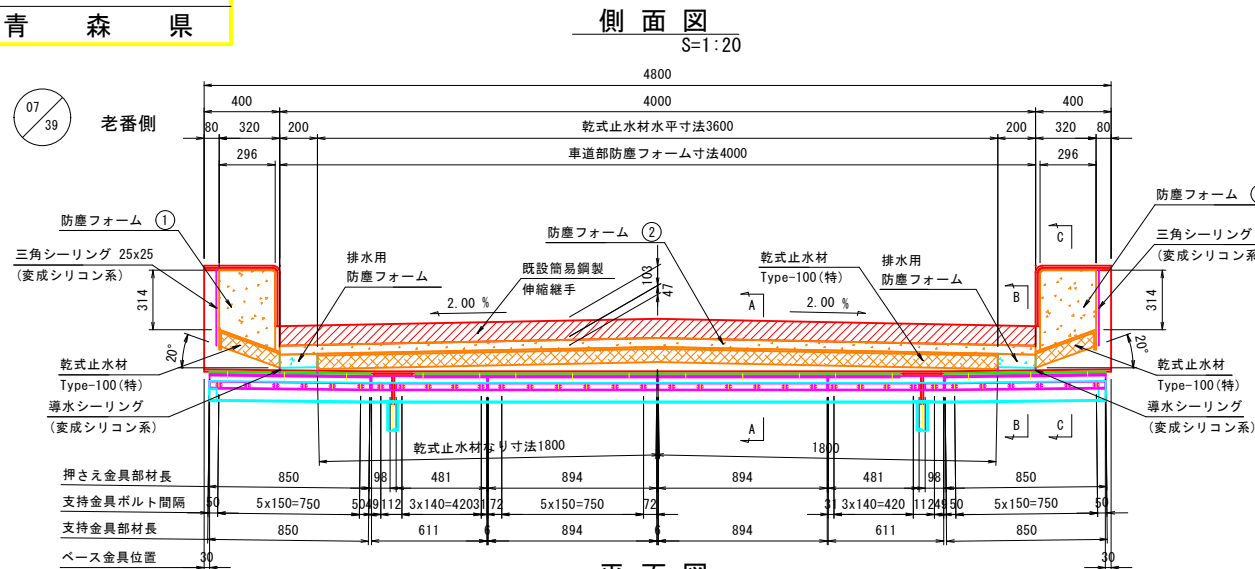
令和6年度 神明橋梁補修工事		
工事番号	第 34 号	
路線 河川	阿光坊線	
施工箇所	おいらせ町阿光坊地内	
伸縮装置補修工図 (その4)	縮尺	図示
図面番号	業中	
おいらせ町		
青 森 県		

神明橋 伸縮装置補修工図 (その4)

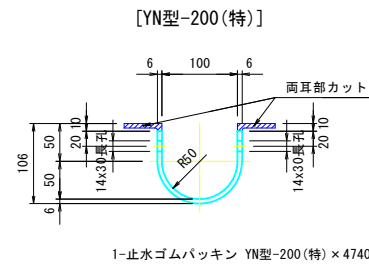
P1 P2 P3 P4 P5橋脚

止水材取替工

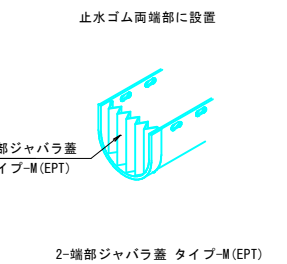
		P1橋脚	P2橋脚	P3橋脚	P4橋脚	P5橋脚
標準ウェブ間隔	+10℃時	100mm	100mm	100mm	100mm	100mm
最大ウェブ間隔	-20℃時	113mm	113mm	113mm	113mm	113mm
最小ウェブ間隔	+40℃時	87mm	87mm	87mm	87mm	87mm



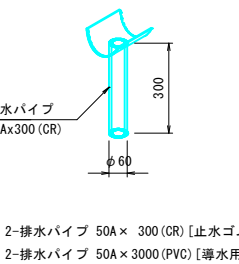
止水ゴムパッキン詳細図 S=1:5



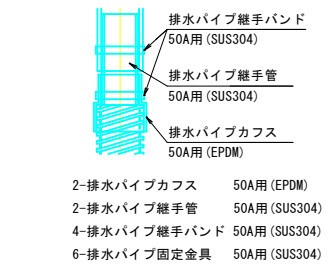
端部ジャバラ蓋詳細図 Nonscale



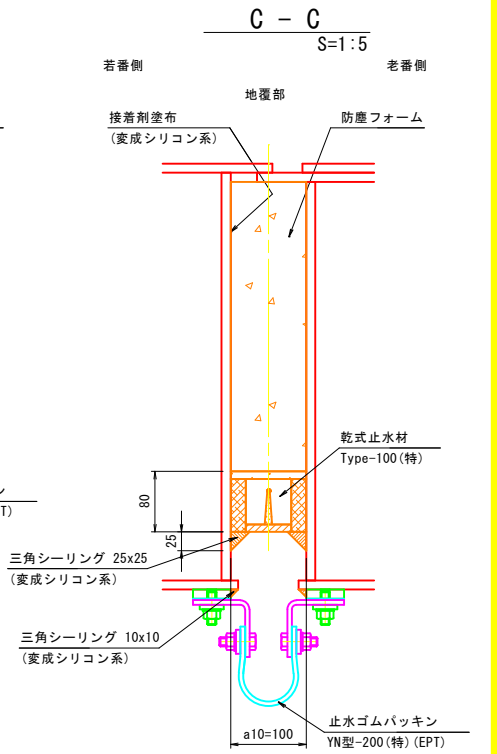
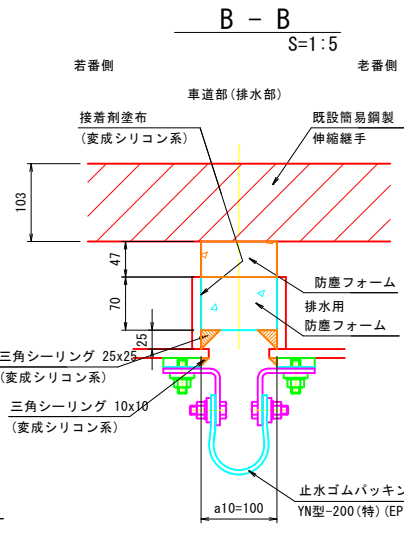
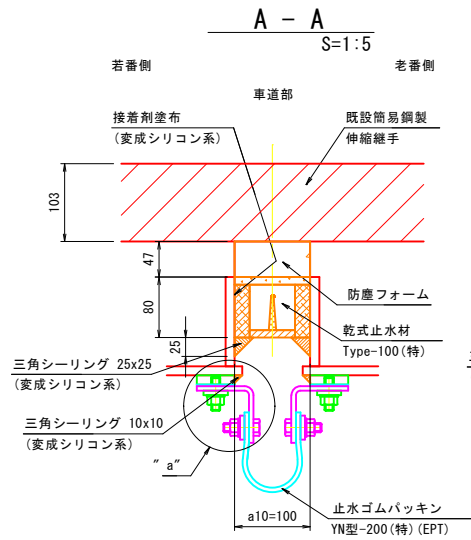
排水パイプ詳細図 Nonscale



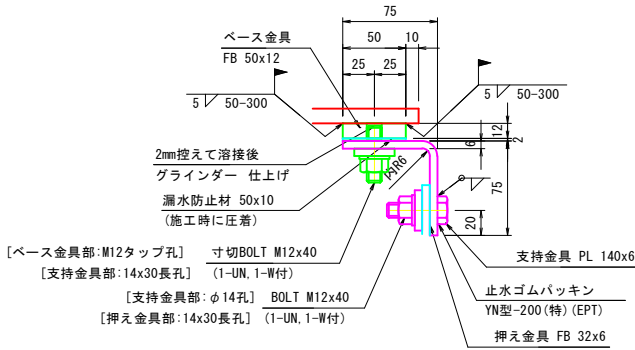
排水パイプ継手部詳細図 S=1:5



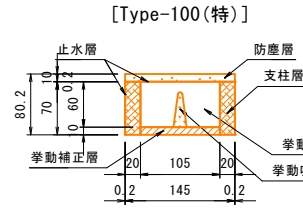
- ① 2-乾式止水材 Type-100(特) × 341
1-乾式止水材 Type-100(特) × 3600
2-防塵フォーム 123 × 70 × 200
② 1-防塵フォーム 123 × 47 × 4000
4-漏水防止材 50 × 10 × 850
4-漏水防止材 50 × 10 × 377
4-漏水防止材 50 × 10 × 894
- ※1 2-FB 32 × 6 × 850
※1 2-FB 32 × 6 × 98
※1 2-FB 32 × 6 × 481
※1 2-FB 32 × 6 × 894
- ※1 2-PL 140 × 6 × 850
※1 2-PL 140 × 6 × 611
※1 2-PL 140 × 6 × 894
- ※2 2-FB 50 × 12 × 850
※2 2-FB 50 × 12 × 377
※2 2-FB 50 × 12 × 894
- ※1 16-寸切BOLT M12 × 40 (1-UN, 1-W付)
※1 34-BOLT M12 × 40 (1-UN, 1-W付)



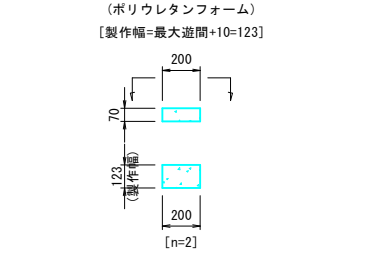
“a”部詳細図 S=1:3



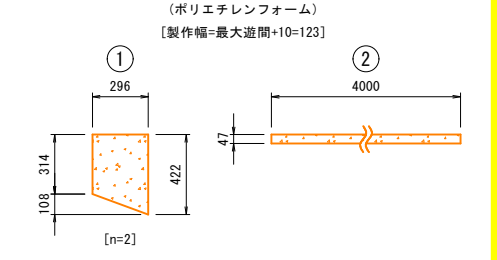
乾式止水材詳細図 S=1:5



排水用防塵フォーム詳細図 S=1:20

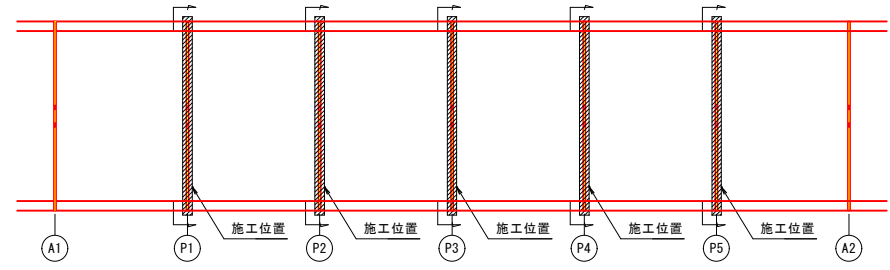


防塵フォーム詳細図 S=1:20



- 注記
- 特記なき鋼材の材質は全てSS400とする。
 - ※1印部材は溶融亜鉛メッキ処理を施す。付着量はJIS H 8641 HDZ55とする。ただしボルト類はHDZ35とする。
 - ※2印部材は現場溶接であるので熱影響部の既設塗装の剥離を行なって溶接し、溶接後はタッチアップ塗装を行なうこと。
 - 金具に溶接されたボルトは工場出荷時にビニールパイプ等で養生すること。
 - 各種止水材を設置する際、伸縮装置本体の止水材接着面の下地処理を確実にすること。
 - 接着剤(t=3)に接する局部材面及び各種シーリングに接する部材面にはそれらの施工の前にプライマー(0.1kg/m²)を塗布すること。
 - 止水ゴムパッキンの排水用排水パイプの流末処理方法は協議の上決定すること。
 - 施工及び部材製作に際しては現地調査を行ない、本図面との照合を行なうこと。

配置図



令和6年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 3 4 号	
路線 河川 名		阿光坊線	
施工箇所		おいらせ町阿光坊地内	
排水装置補修工図 (その1)		縮尺	図示
図面番号	業中		
おいらせ町			
青 森 県			




神明橋 排水装置補修工図（その1）

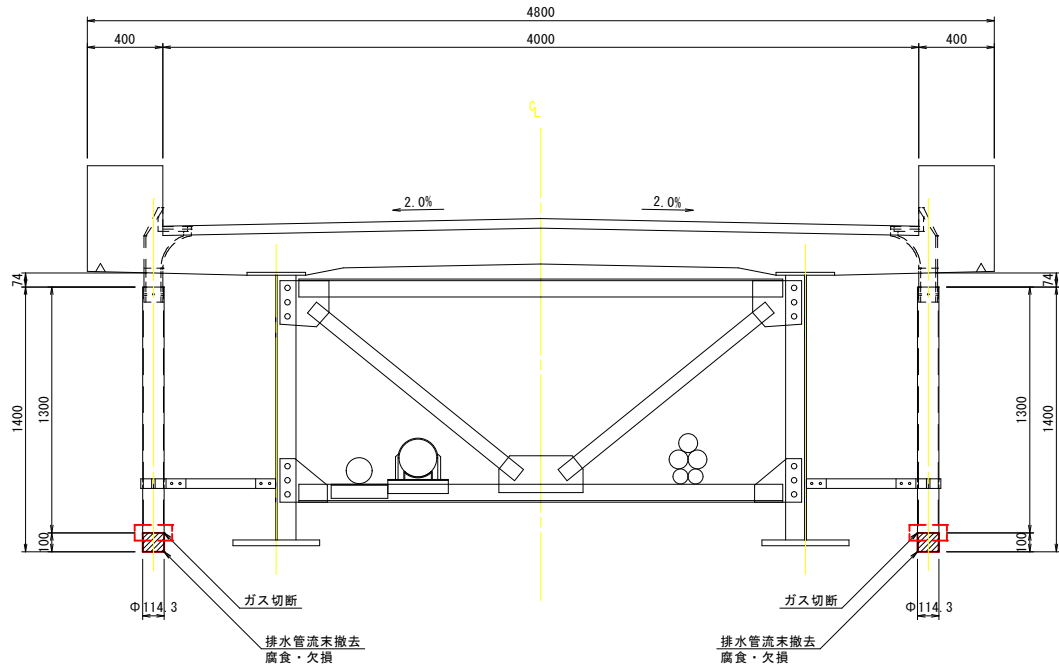
鋼部材補修工

施 工 前

S=1:20

1箇所当り 切断 … L=0.36m , t=4.5mm


凡例 :  … 既存排水管切断 L=0.36m×1本



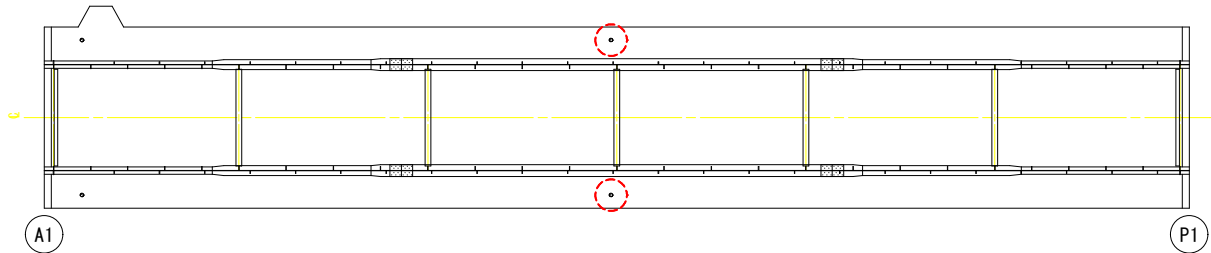
撤去部材 (N=20)
1-φ114.3×4.5×100 (STK400)

位 置 図

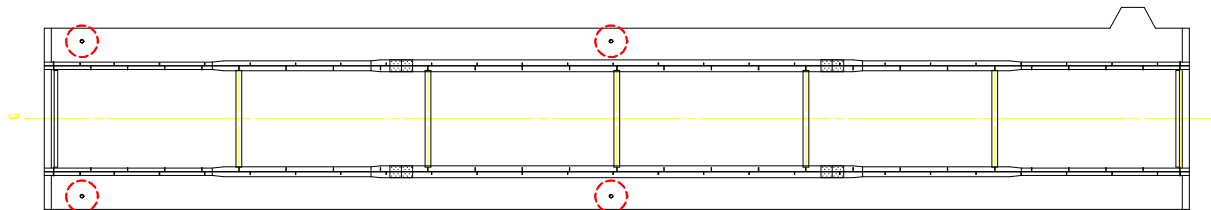
S=1:100

凡例 :  … 施工箇所 20箇所 (※橋台付近4箇所を除く)

第1径間、第6径間



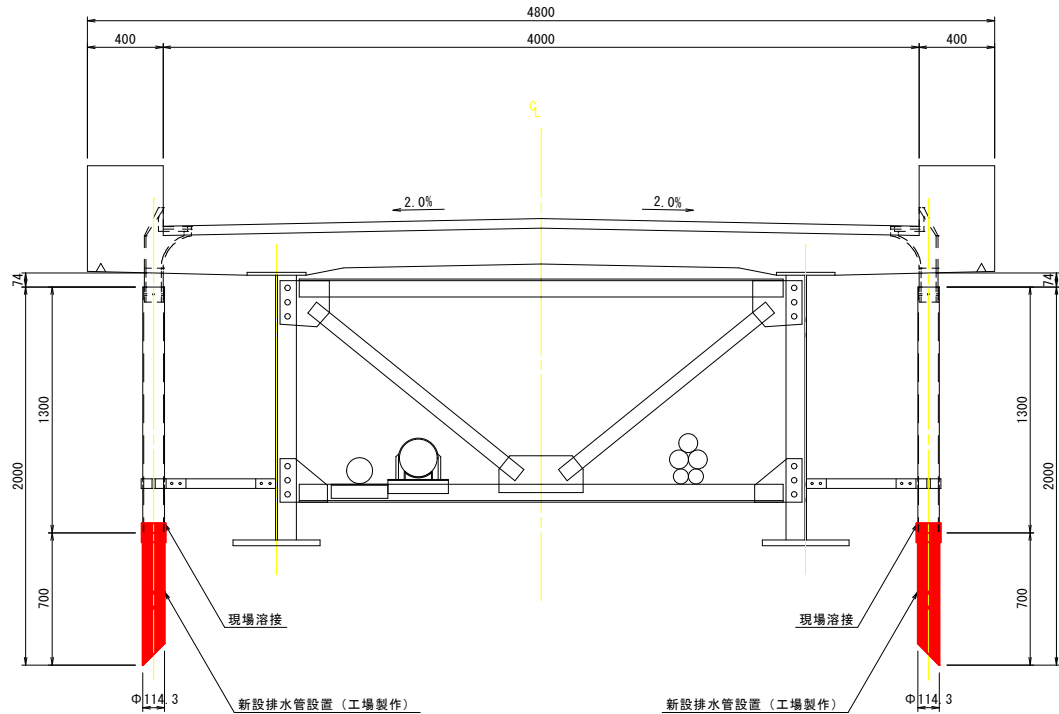
第2径間～第5径間



施 工 後

S=1:20



1箇所当り 現場溶接 … (溶接の脚長4mm) L=0.36m

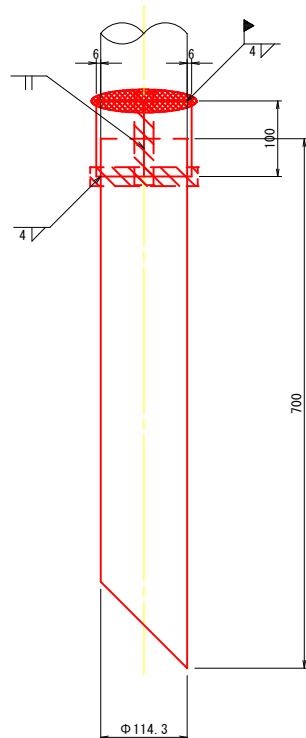


新設部材 (N=20)
1-φ114.3×4.5×700 (STK400)
1-PL 100×6×397 (SM400A)

現場溶接部詳細

S=1:5

凡例 :  … 現場溶接 L=0.36m×1本
 … 工場溶接 L=0.36m×1本,
L=0.10m×1本



注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

令和6年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 3 4 号	
路線 河川 名		阿光坊線	
施工箇所		おいらせ町阿光坊地内	
排水装置補修工図 (その2)		縮尺	図示
図面番号	業中		
おいらせ町			
青 森 県			



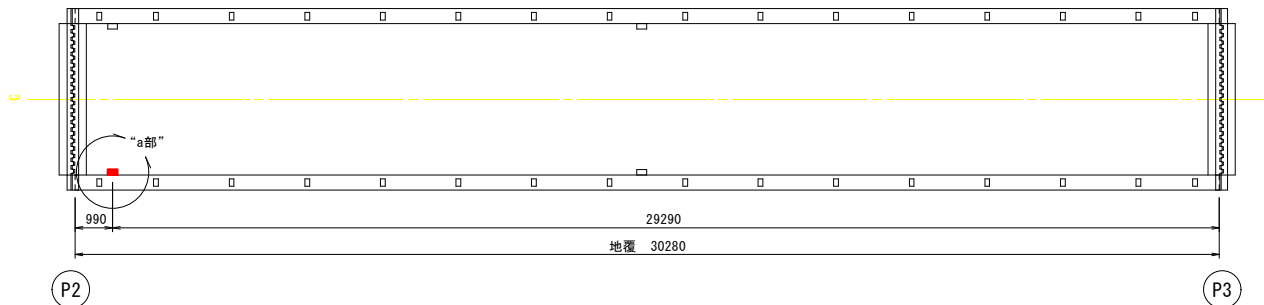
神明橋 排水装置補修工図（その2）

鋼部材補修工

位置図

S=1:100

第3径間



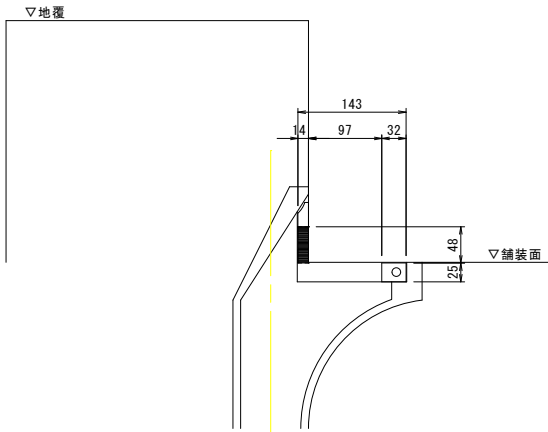
“a部”詳細

S=1:5

（既設部材撤去）

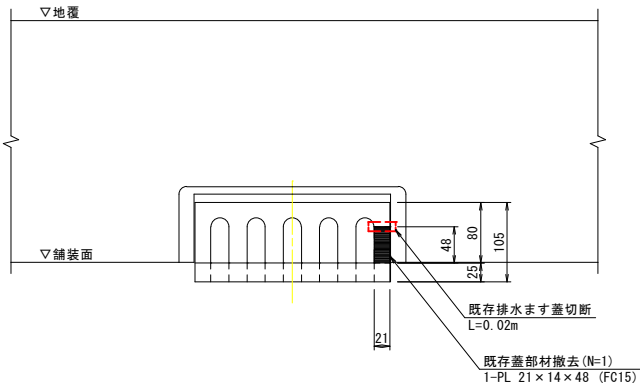
切断 … L=0.02m , t=14mm

断面図

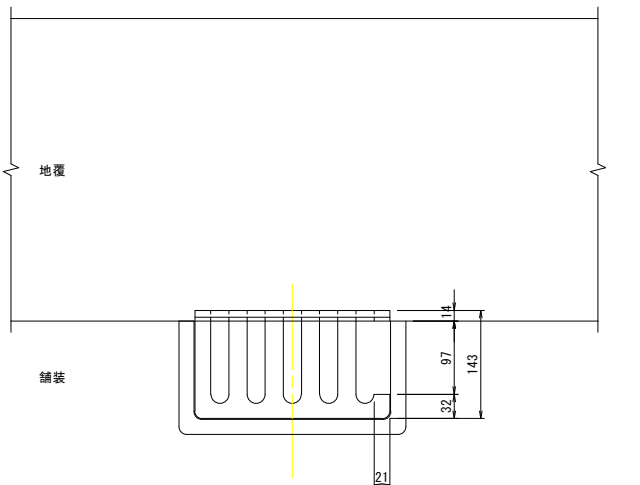


側面図

凡例：□… 既存排水ます蓋切断 L=0.02m×1本



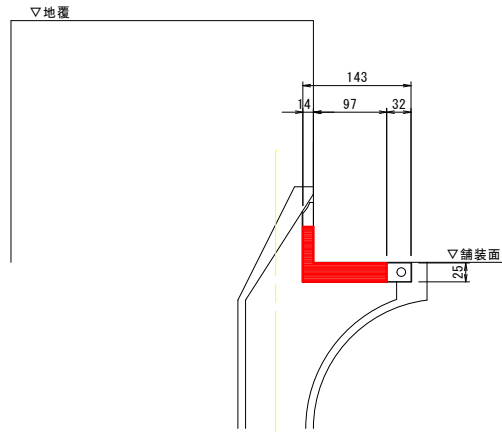
平面図



（取替部材設置）

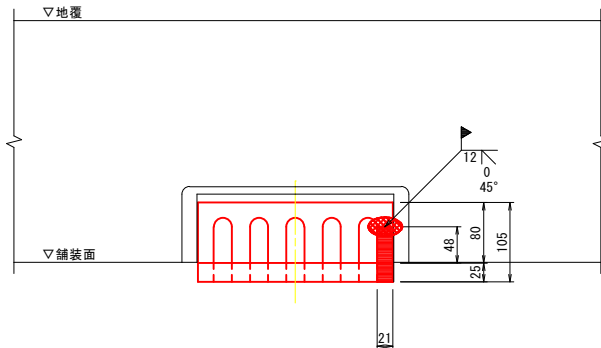
現場溶接 … (開先深さ12mm) L=0.02m
(開先深さ23mm) L=0.02m

断面図



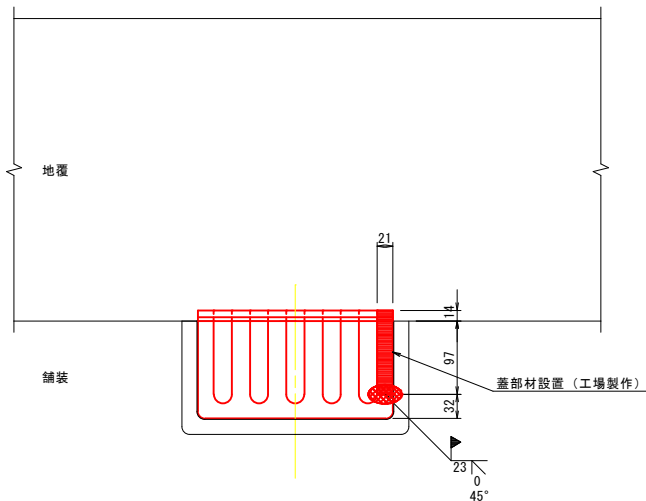
側面図

凡例：●… 現場溶接 L=0.02m×1本



平面図

凡例：●… 現場溶接 L=0.02m×1本

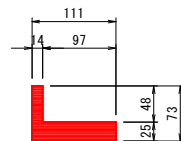


材料

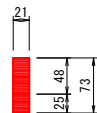
S=1:5

新設部材 (N=1)

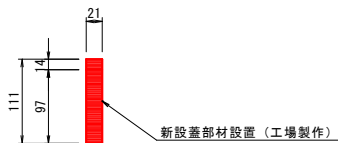
断面図



側面図



平面図



注記

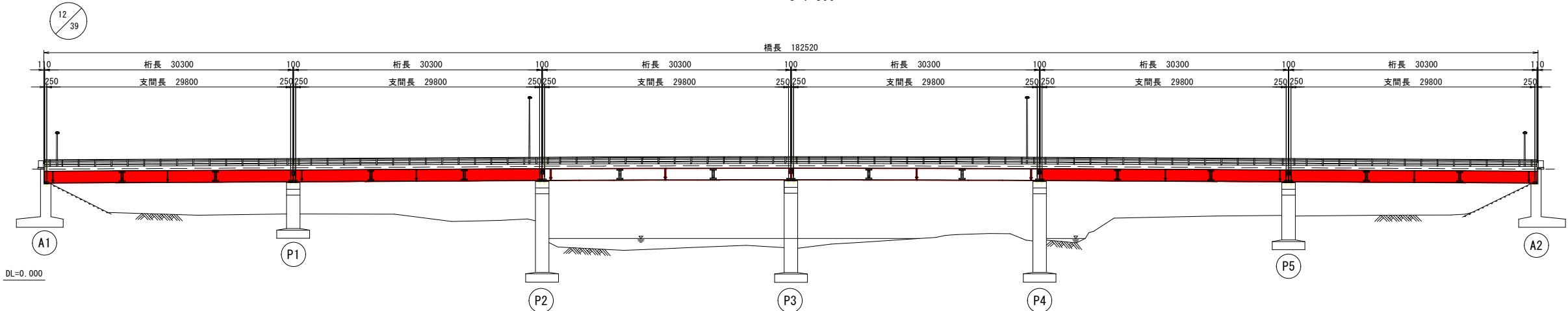
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

令和6年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 34 号	
路線 河川 名		阿光坊線	
施工箇所		おいらせ町阿光坊地内	
主桁表面処理工図 (その1)		縮尺	図示
図面番号		業中	
おいらせ町			
青 森 県			

神明橋 主桁表面処理工図（その1）

側面図

S=1:300

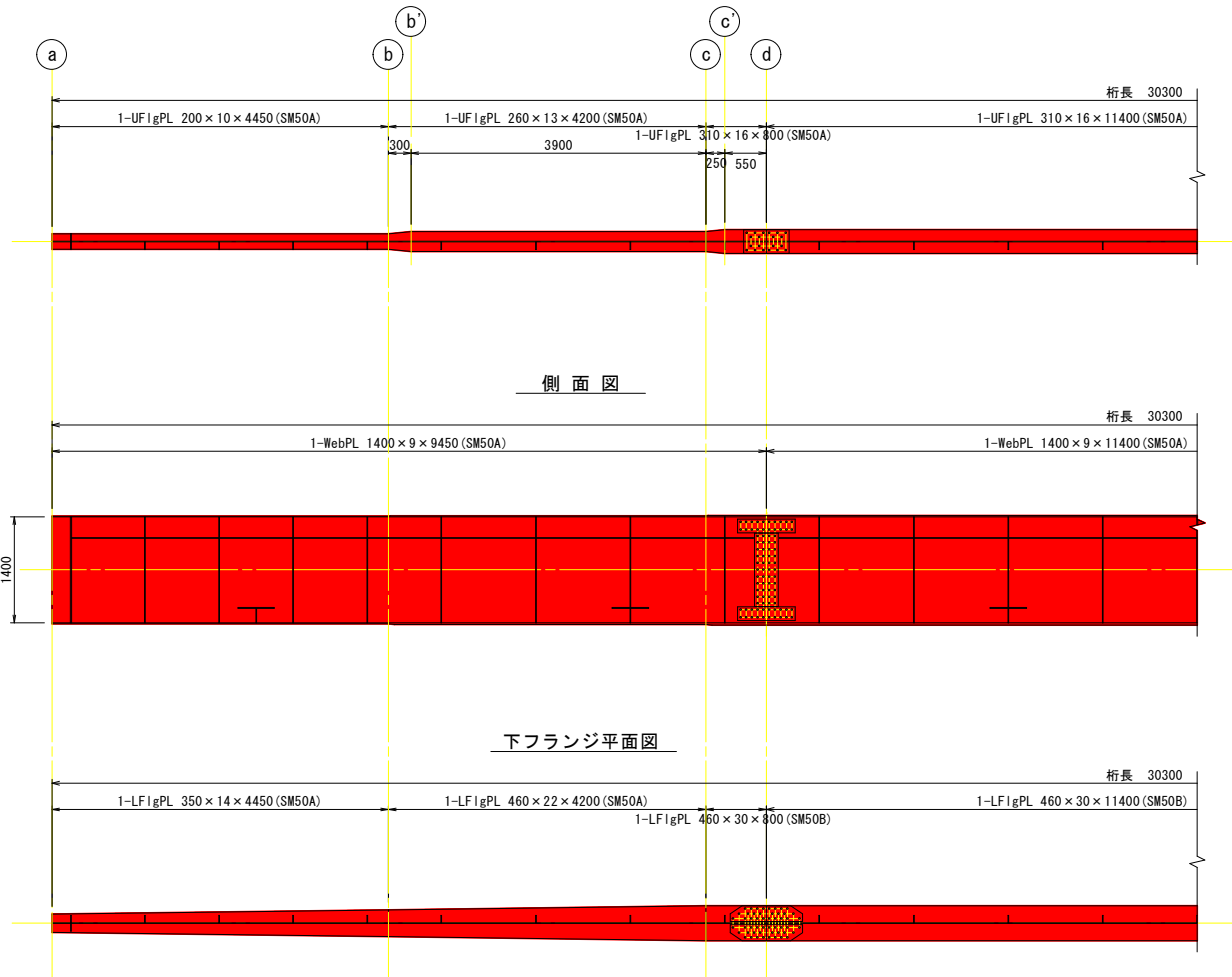


主桁

S=1:50

第1径間～第6径間

上フランジ平面図

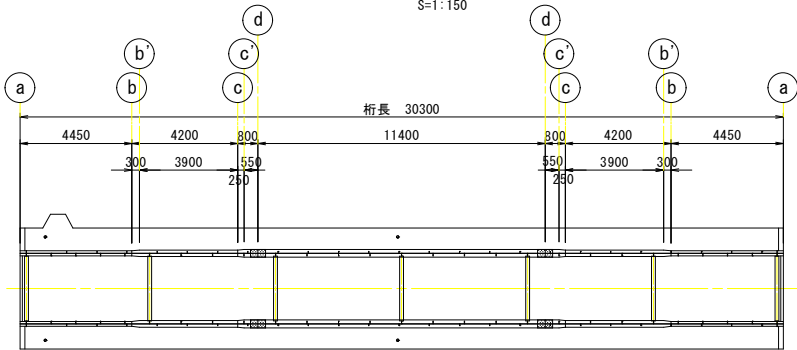


側面図

下フランジ平面図

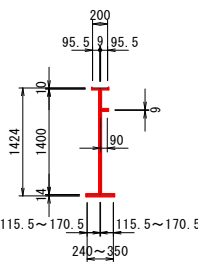
平面図

S=1:150



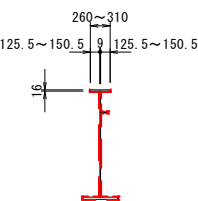
断面図

(a)～(b)



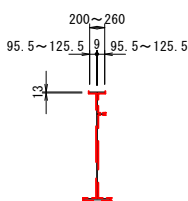
(c)～(c')

(上フランジ)



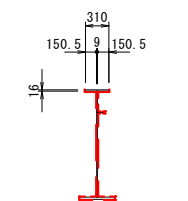
(b)～(b')

(上フランジ)



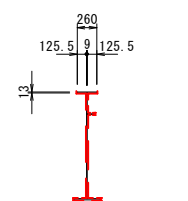
(c)～(d)

(上フランジ)



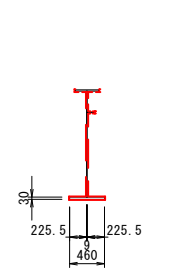
(b')～(c)

(上フランジ)



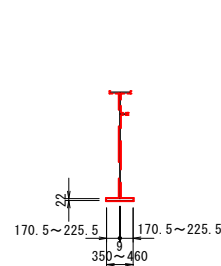
(c)～(d)

(下フランジ)



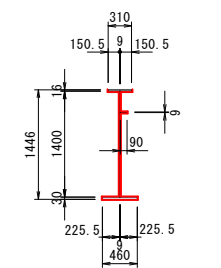
(b)～(c)

(下フランジ)

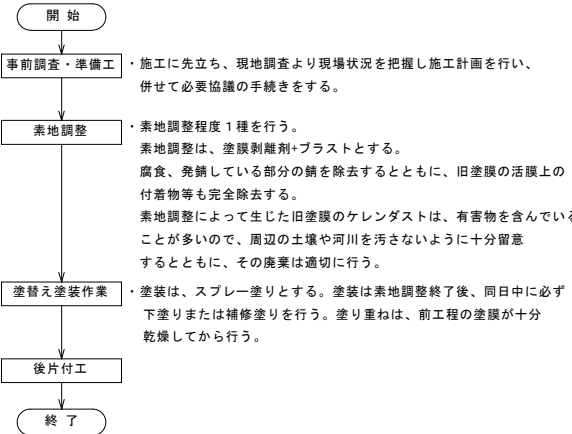


(d)～(d')

(下フランジ)



施工手順

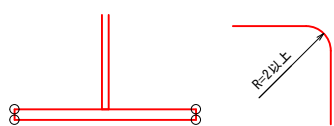


Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m) ²	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3: プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

エッジ部曲面仕上げ



※ エッジ部は膜厚が確保されにくいことから、一般部と同等の塗膜性能を確保するため2R以上の面取りを行い、曲面仕上げとすること。
(下フランジエッジ部: 4角を対象とする)
また、曲面仕上げを行ったエッジ部は、以下に留意し先行塗装を行う。
① 各層での膜厚不足を回避するため、先行塗装は各層で行うこと。
② 先行塗装は一般部と同じ膜厚とする。また、膜厚過多による硬化不良を起こさないことに注意し、本塗りと同日施工でも構わないこととする。

注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

鋼部材再塗装工

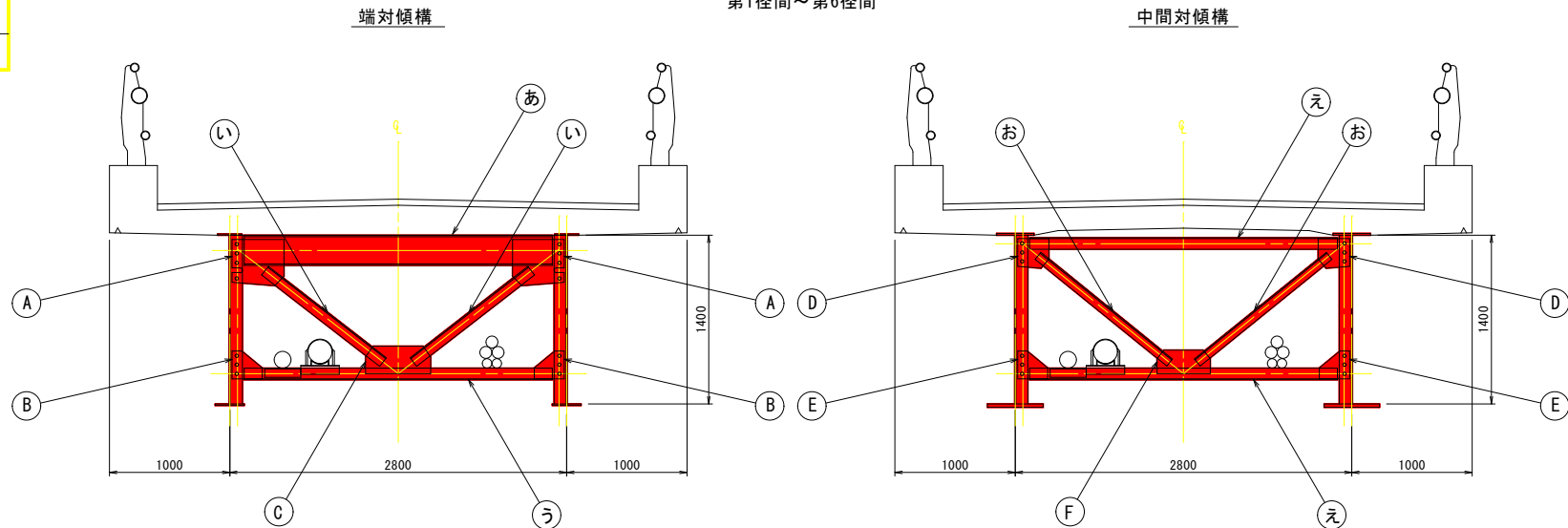
令和6年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 3 4 号	
路線名		阿光坊線	
施工箇所		おいらせ町阿光坊地内	
主桁表面処理工図 (その2)		縮尺	図示
図面番号	業中		
おいらせ町			
青 森 県			

神明橋 主桁表面処理工図（その2）

対傾構

S=1:30

第1径間～第6径間

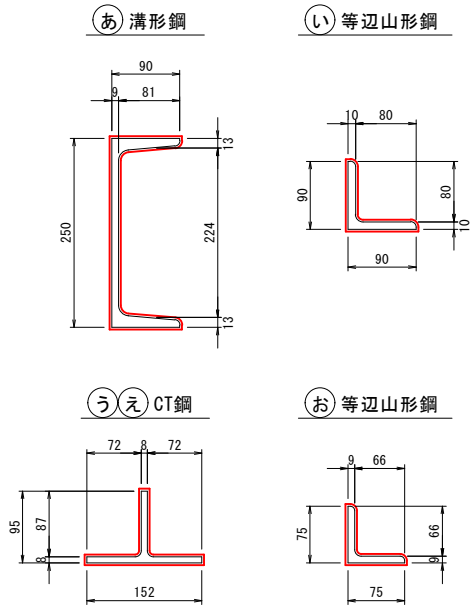


対傾構ガセットプレート詳細図

S=1:5

対傾構断面図

S=1:5

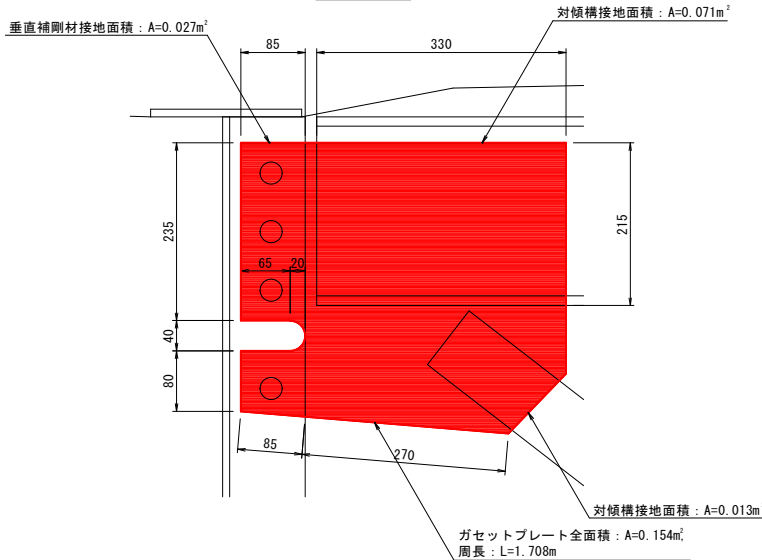


数量表（1径間当り）

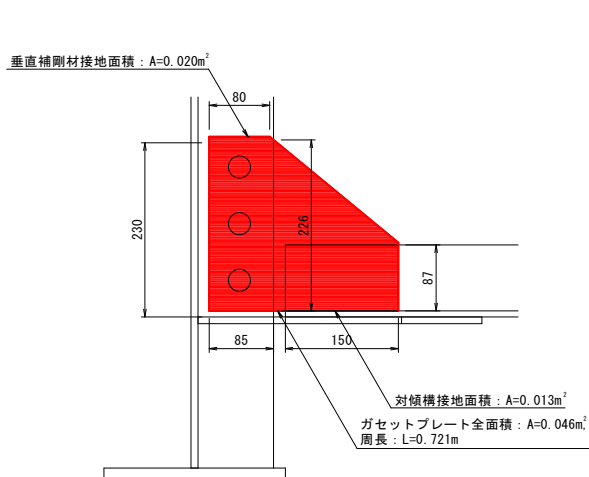
工 法	箇 所	寸 法	数 量
鋼部材再塗装工	対傾構 ガセット プレート	A) 355×9×355	4
		B) 230×9×250	4
		C) 230×9×540	2
		D) 230×9×260	10
		E) 230×9×250	10
		F) 195×9×445	5

工 法	箇 所	寸 法	数 量
鋼部材再塗装工	対傾構	あ) 250×90×9×13×2560	2
		い) 90×90×10×1240	4
		う) 95×152×8×8×2560	2
		え) 95×152×8×8×2560	10
		お) 75×75×9×1410	10

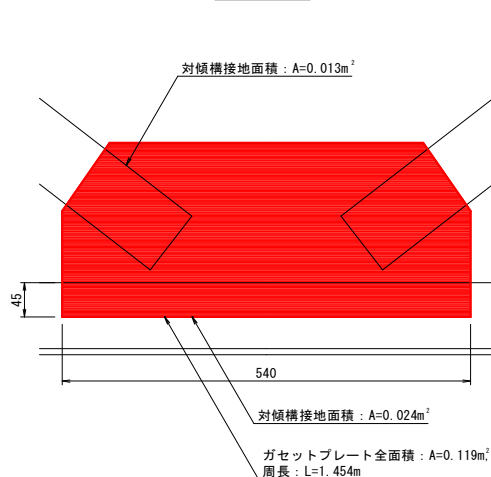
A部詳細



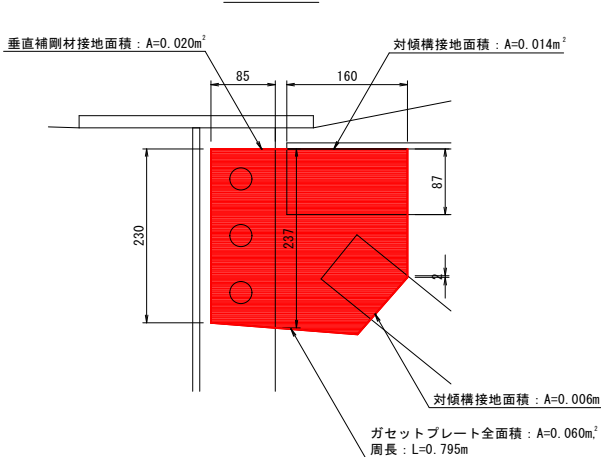
B部詳細



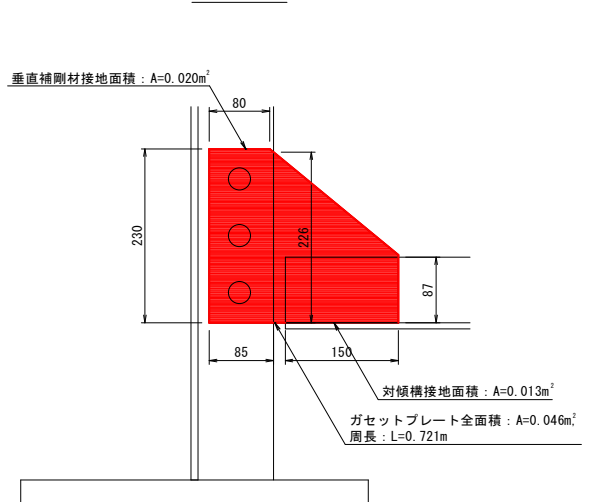
C部詳細



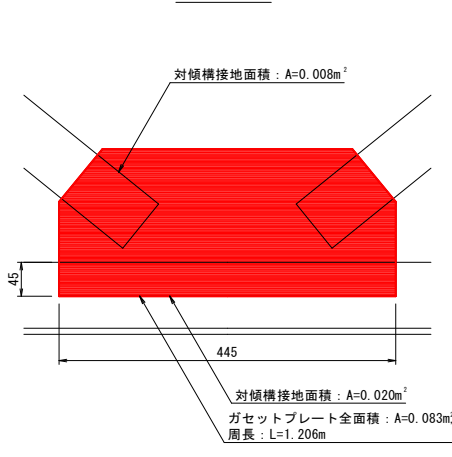
D部詳細



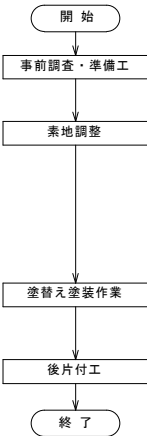
E部詳細



F部詳細



施 工 手 順



- ・施工に先立ち、現地調査より現場状況を把握し施工計画を行い、併せて必要協議の手続きをする。
- ・素地調整程度1種を行う。
素地調整は、塗膜剥離剤+プラストとする。
腐食、発錆している部分の錆を除去するとともに、旧塗膜の活膜上の付着物等も完全除去する。
素地調整によって生じた旧塗膜のケレンダストは、有害物を含んでいることが多いので、周辺の土壌や河川を汚さないように十分留意するとともに、その廃棄は適切に行う。
- ・塗装は、スプレー塗りとする。塗装は素地調整終了後、同日中に必ず下塗りまたは補修塗りを行う。塗り重ねは、前工程の塗膜が十分乾燥してから行う。

Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m) ²	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

- ※1: 原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
- ※2: 現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
- ※3: プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

注 記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

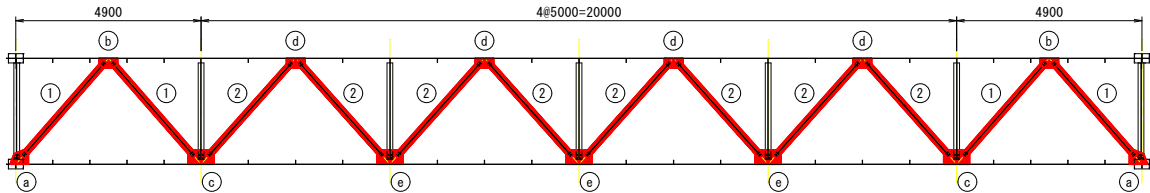
鋼部材再塗装工

令和6年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 3 4 号	
路線 河川 名		阿光坊線	
施工箇所		おいらせ町阿光坊地内	
主桁表面処理工図 (その3)		縮尺	図示
図面番号	業中		
おいらせ町			
青 森 県			

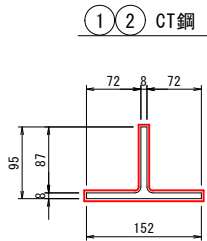
神明橋 主桁表面処理工図（その3）

下横構
S=1:100
第1径間～第6径間

平面図



下横構断面図
S=1:5



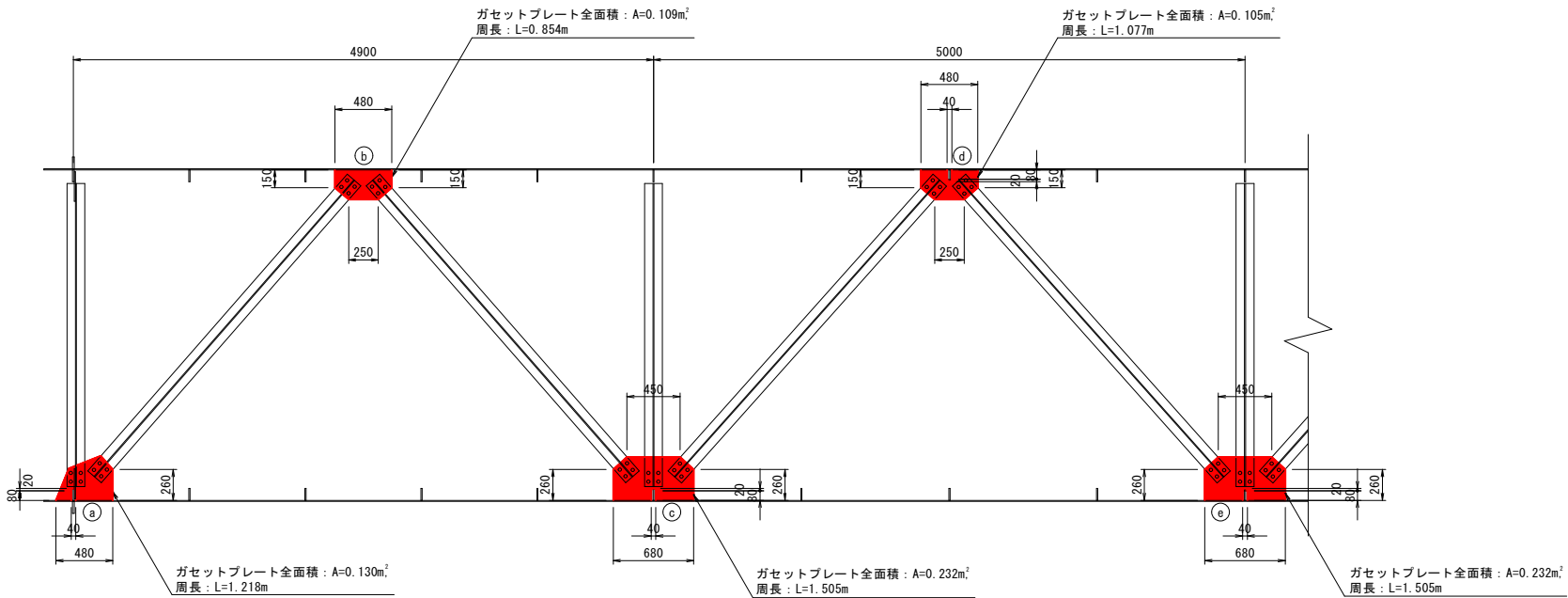
数量表（1径間当り）

工 法	箇 所	寸 法	数量
鋼部材再塗装工	下横構 ガセットプレート	a) 375×9×480	2
		b) 250×9×480	2
		c) 365×9×680	2
		d) 250×9×480	4
		e) 365×9×680	3

工 法	箇 所	寸 法	数量
鋼部材再塗装工	下横構	① 95×152×8×8×3330	4
		② 95×152×8×8×3360	8

下横構ガセットプレート詳細図

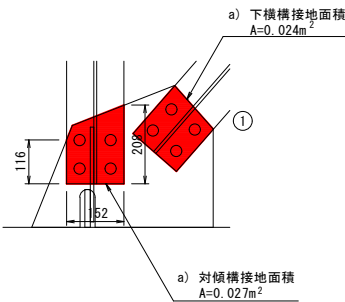
S=1:30



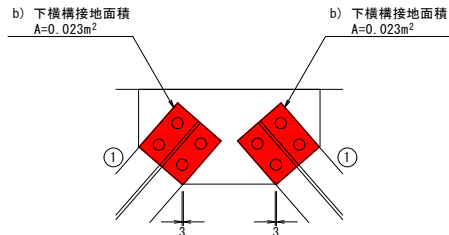
下横構詳細図

S=1:10

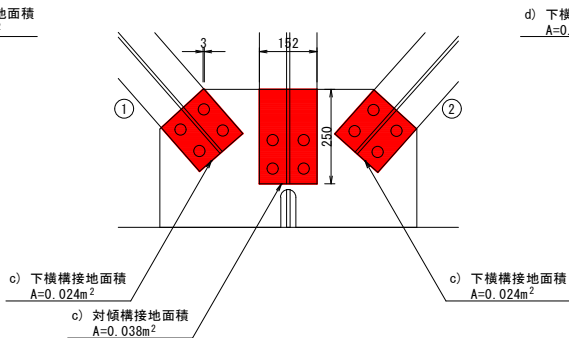
a部詳細



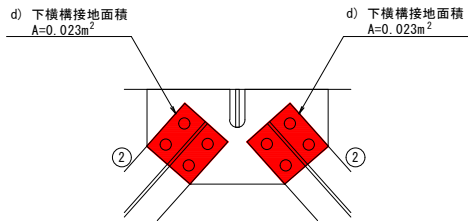
b部詳細



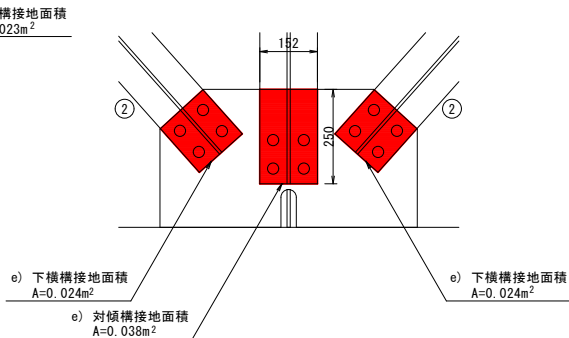
c部詳細



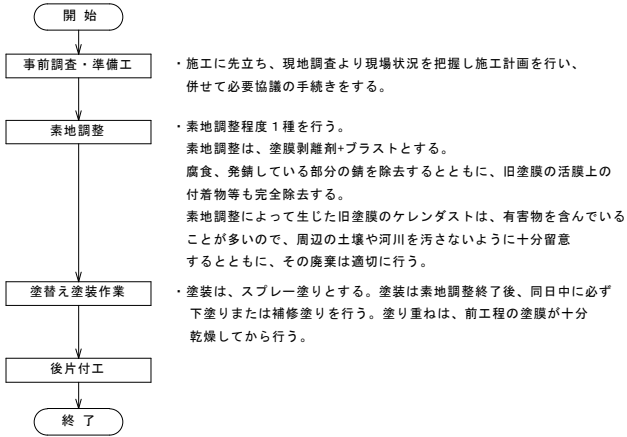
d部詳細



e部詳細



施 工 手 順



Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m) ²	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

：鋼部材再塗装工

注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当たり、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

令和6年度 神明橋橋梁補修工事			
工事番号		第 3 4 号	
路線名		阿光坊線	
施工箇所		おいらせ町阿光坊地内	
主桁表面処理工図 (その4)		縮尺	図示
図面番号	業中		
おいらせ町			
青 森 県			

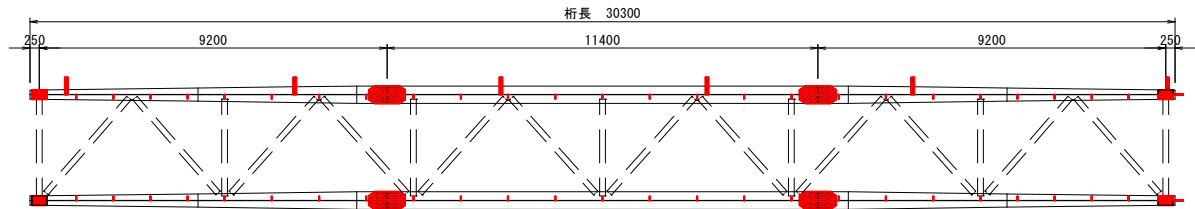


神明橋 主桁表面処理工図（その4）

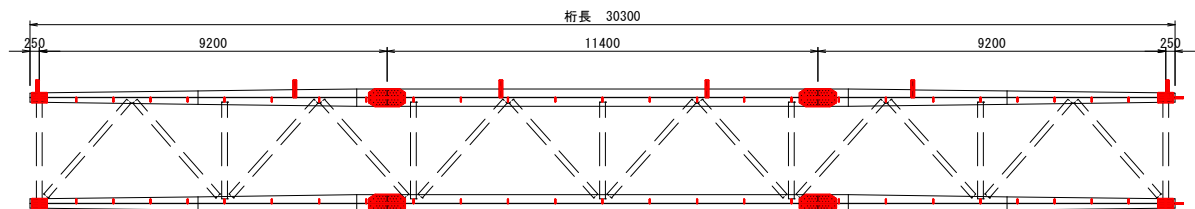
平面図

S=1:100

第1径間、第6径間



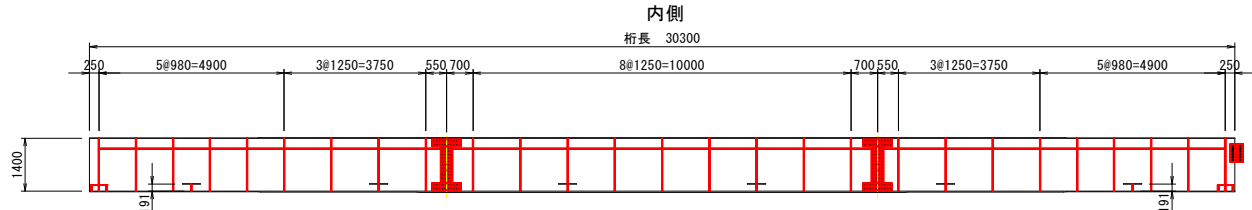
第2径間～第5径間



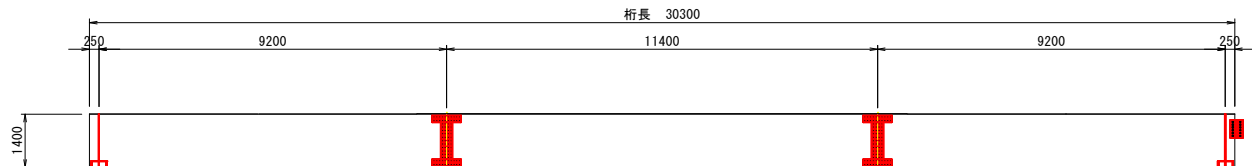
側面図

S=1:100

第1径間～第6径間



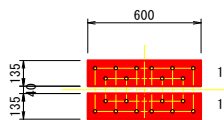
外側



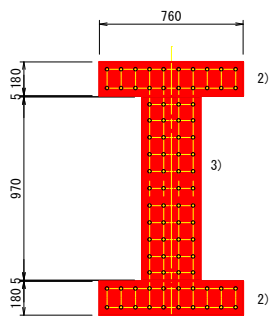
添接板詳細図

S=1:20

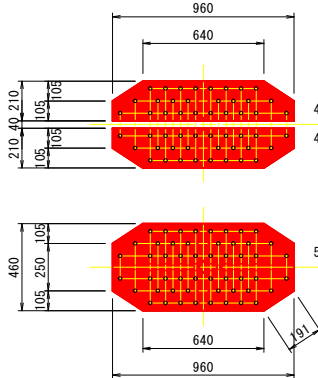
上フランジ平面図



ウェブ側面図



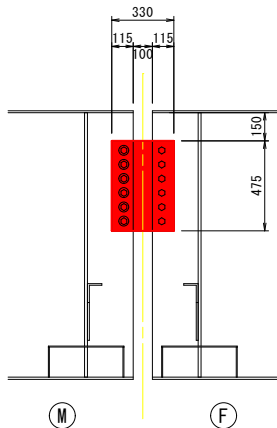
下フランジ平面図



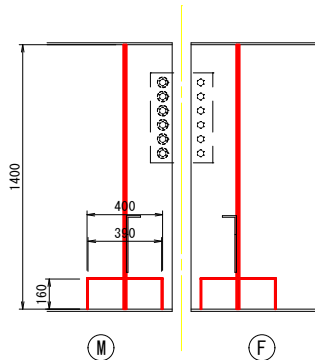
落橋防止装置詳細図

S=1:20

t=9mm



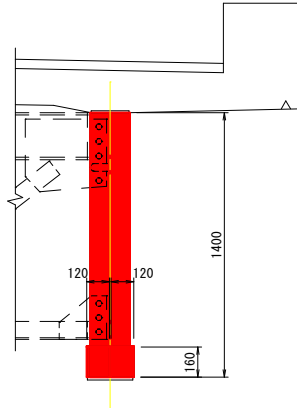
側面図



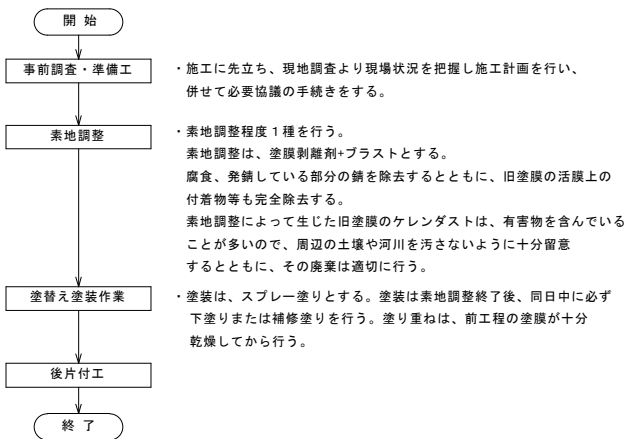
垂直補剛材（支点部）詳細図

S=1:20

断面図



施工手順



Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

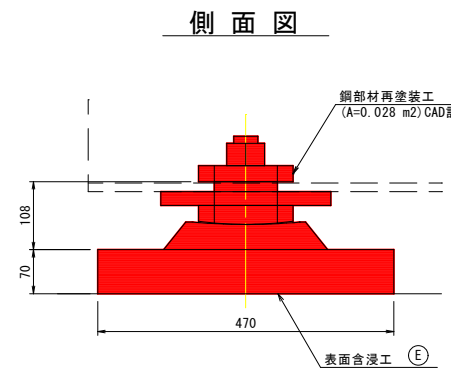
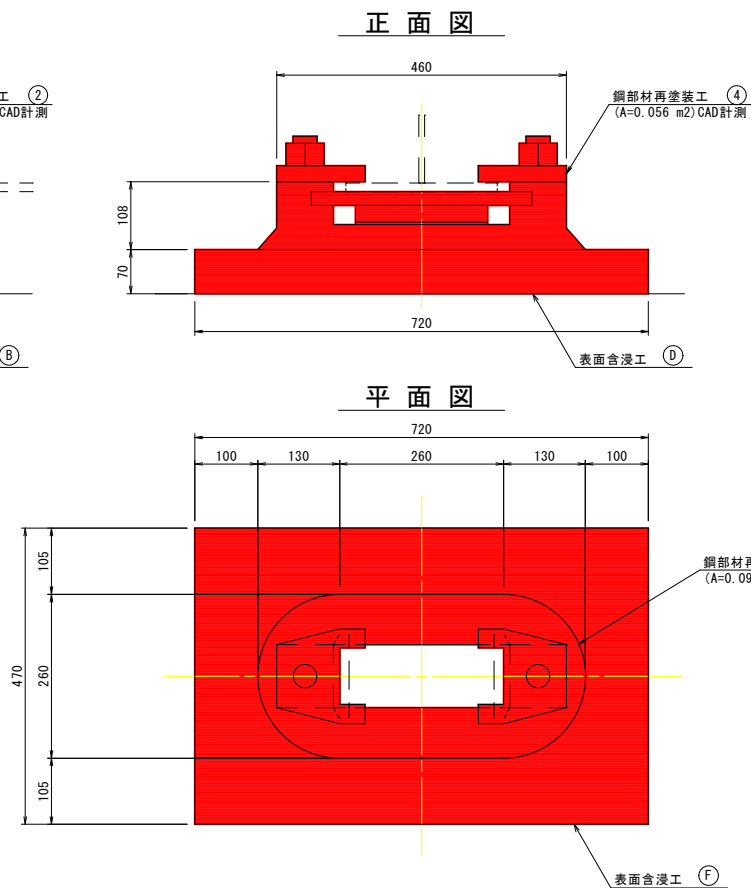
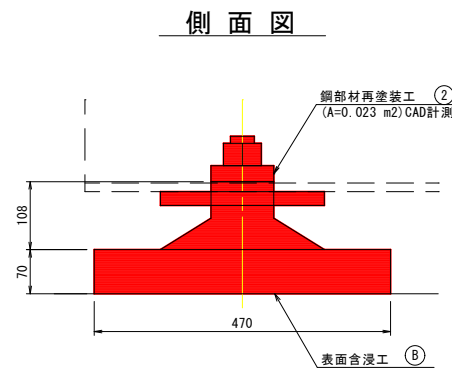
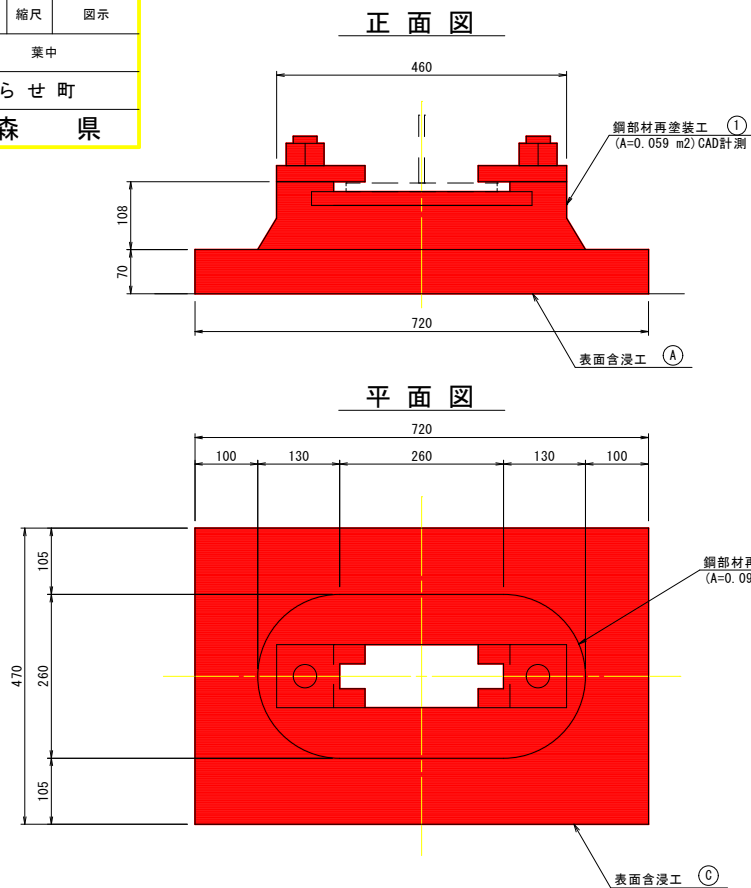
※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

：鋼部材再塗装工

注記

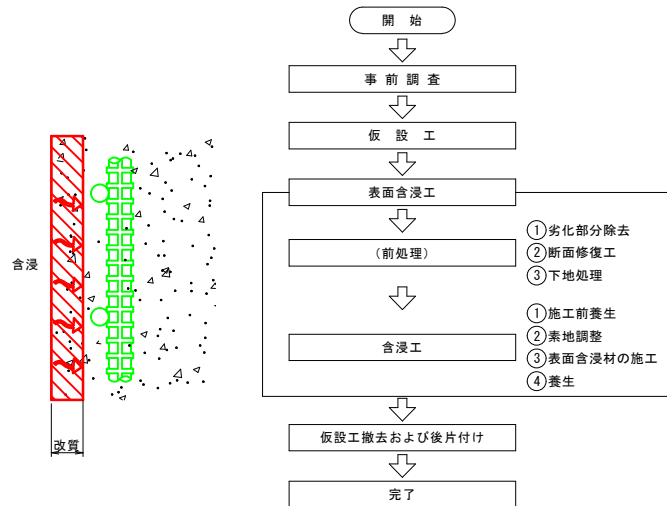
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

令和6年度 神明橋橋梁補修工事		
工事番号	第 34 号	
路線 河川	阿光坊線	
施工箇所	おいらせ町阿光坊地内	
支承補修工図	縮尺	図示
図面番号	業中	
おいらせ町		
青 森 県		



表面含浸工

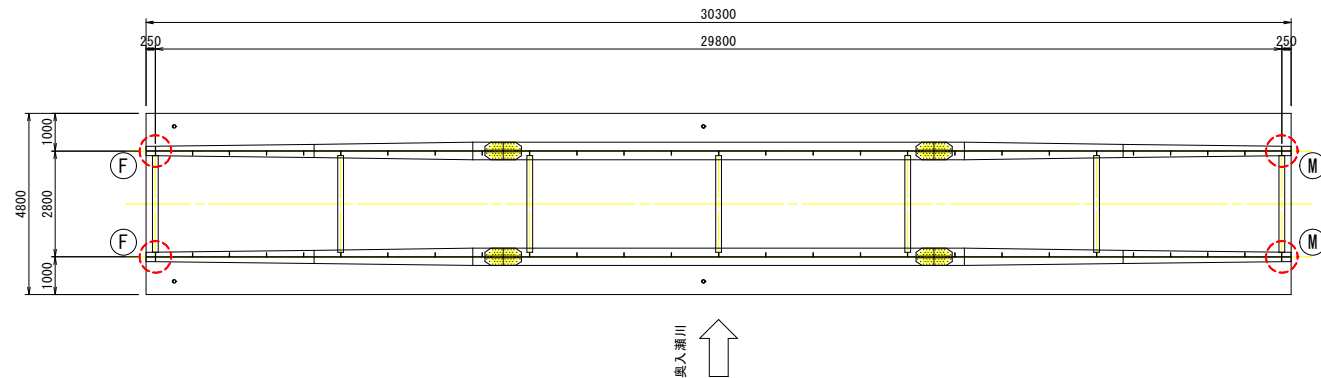
表面含浸工の施工フロー



工 種	仕 様
表面含浸工	高分子系 (標準使用量0.25kg/m ²)

高分子系表面含浸材の施工仕様例

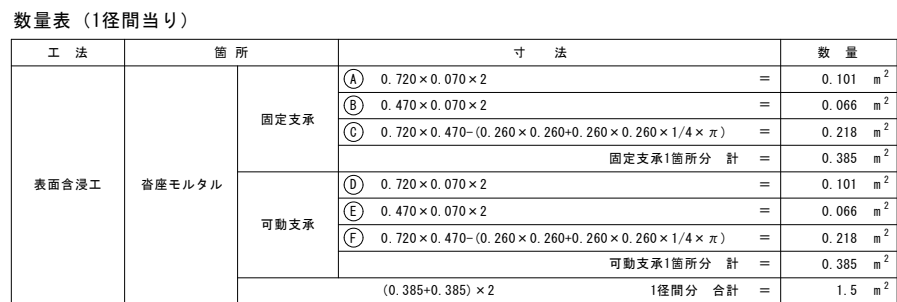
工 程		標準使用量 (kg/m ²)	施工方法	塗重ねの工程間隔
素地調整・下地処理		別途	—	
下地の確認および清掃		別途	—	
1	高分子系表面含浸材	0.25	吹付け、ローラー刷毛塗り	6～12時間以上



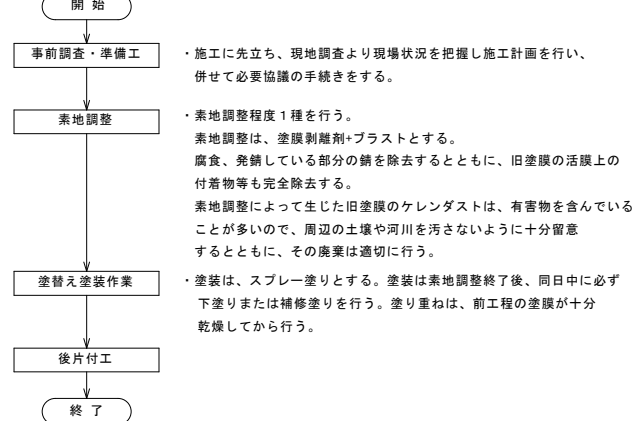
神明橋 支承補修工図

固定支承
S=1:6

可動支承



施 工 手 順



工 法	箇 所		数量
鋼部材再塗装工	支 承	固 定	2
		可 動	2

Rc-I塗装系（スプレー）

塗装工程	塗 料 名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1 種		4時間以内
下 塗	有機ジシクリッチペイント	600	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日～10日

※1:原則はスプレー塗装とするが、発注者との協議の上で、はけ、ローラーに変更もできる。
 ※2:現場の施工条件に応じて塗装間隔を別途取り決める場合もある。
 ※3:プラスト処理による除せいでISO Sa 2 1/2とする。

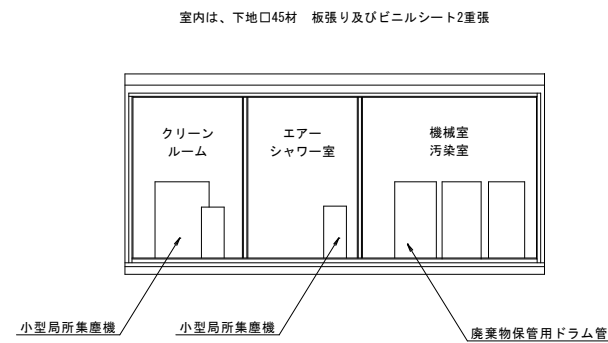
注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 再塗装の色は監督職員と協議して決定すること。

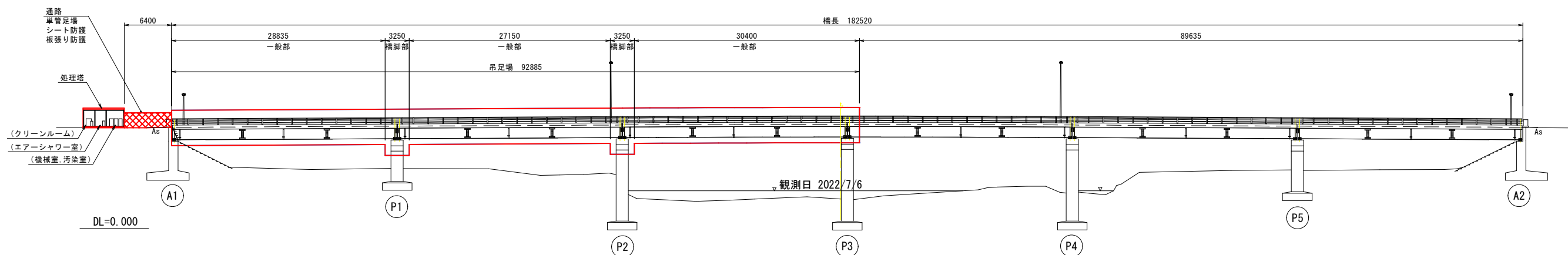
第1期・第2期施工

S=1:50

断面図



S=1 : 300



S=1 : 300

